

# 子ども支援者支援における メンタライゼーションアプローチの有用性 —研究動向と今後の展望—

松葉 百合香 田中 穂乃香 桂川 泰典 大月 友 早稲田大学

Usefulness of the mentalization approach in supporting child supporters: Recent issues and prospects

Yurika MATSUBA, Honoka TANAKA, Taisuke KATSURAGAWA,  
and Tomu OHTSUKI (Waseda University)

Stress has been a problem among supporters of children (child supporters) with developmental disabilities, mental illnesses, and behavioral disorders. Support for improving the mentalization of child supporters may be effective in reducing occupational stress because it leads to the establishment of a smooth relationship with children. This study aims to use review surveys and intervention studies to investigate the impact of mentalization on child supporters and their clients. We organized the attributes of the target supporters, assessment methods of mentalization, measurement of the impact of mentalization on child supporters, intervention methods, and intervention effects. Our results indicate that the mentoring approach for child supporters may be useful in reducing occupational stress; it was found to have a positive effect on the mental health of child supporters, as well as their sense of efficacy.

**Key words:** supporter support, work-related stress, mentalization.

*Waseda Journal of Clinical Psychology*  
2022, Vol. 22, No. 1, pp. 101 - 107

本邦では少子化や子どもの貧困の深刻化、児童虐待、子どもの自殺、不登校の増加などの子どもの問題にコロナ禍の影響が追い打ちをかけており、社会全体での子ども支援の強化が求められている (cf., 内閣府, 2021a)。近年では、地域の支援体制を整える子ども・子育て支援新制度 (内閣府, 2021b) が発足し、チルドレン・ファースト社会を実現するべく子ども家庭庁の設置法案 (内閣官房, 2022) が可決されるなどめざましい動きがみられる。

こうした動きに伴い、地域の福祉、教育施設などで子ども支援に従事する者 (以下、子ども支援者) が今後増加することが見込まれる。子ども支援者は発達障害や精神疾患、問題行動 (暴言、暴力など) を抱える子どもに対応することも多く、子ども支援者特有のストレスが明らかになっている (e.g., 椎谷・栗田・宗像, 1990)。例えば、トラウマや愛着上の問題を抱える被虐待児などの対応においては、信頼関係の構築に課題があり、子どもの行動によって支援者自身が深刻な傷つきを負うこともある (藤岡, 2018)。こうしたストレスにより、子ども支援者の共感疲労、自己統合感の低下、主体的な支援への意欲の低下といった精

神的健康度の低下やバーンアウトの危険性が指摘されている (藤岡, 2018)。バーンアウトの結果、被支援者である子どもに対してマルトリートメントなどのネガティブな影響を与える可能性が高まることや、支援職を離れてしまうことが危惧されている (加藤・益子, 2013)。対人支援者の職業性ストレスモデル (森本, 2006) では、職場ストレスによる精神的健康への影響を媒介する要因として、個人差要因と仕事外要因、ストレス対処資源要因が示されている。これまでのバーンアウト研究では、心理教育の適用性の観点から、ストレスコーピングなどのストレス対処資源の支援が重視されてきた (e.g., 落合, 2003) が、個人差要因の持つ影響性も大きいことが指摘されてきた (藤岡, 2018)。特に個人差要因の1つとしてメンタライゼーションへの注目が高まっており、支援者への介入の必要性が示唆されている (Dexter & Wall, 2021)。

メンタライゼーションとは自己や他者の言動、行為を、心理状態に基づいて理解することである (Bateman & Fonagy, 2004)。その発達には、乳幼児期からの養育者との安定した愛着関係において、ミラーリングなどの随伴的応答として表象されたメンタライゼーション

が行われることが重要である (Bateman & Fonagy, 2004)。一方発達を阻害する要因として、養育者のメンタライジング能力の機能不全により情緒的な相互交流の機会が失われること、そのことによって愛着トラウマが生み出されることがあげられている (Allen, Fonagy, & Bateman, 2008)。したがって子どもの安定した愛着を育むためには、養育に関わる支援者のメンタライジング能力が重要であると推測できる。さらに、支援者にとって心理的侵襲の高い子どもの問題行動に対しても、自己の統合観を失わずに理解するにはメンタライジング能力の高さが重要であるため、支援者の心身を守る緩衝要因になると示唆されている (藤岡, 2018)。

性格や特性などの個人差要因は比較的可変性の低い変数であるが、メンタライゼーションは介入によって調整することができるという知見が確立されている (e.g. Bateman & Fonagy, 2004)。これらのことから、子ども支援者に対するメンタライゼーションアプローチは、子どもとの関係性を築くための支援技術の向上や支援者自身のストレスを緩和する上で有効であることが期待できる。

しかし、既存のメンタライゼーション研究では親子関係について言及されているものが多く、子ども支援者に焦点を当てた研究は未だ蓄積されていない。またメンタライゼーションが職業性ストレスに与える影響についても十分に明らかになっていない。したがって本稿では子ども支援者のメンタライゼーションに関する調査研究やメンタライゼーションアプローチを用いた介入研究を系統的に展望し、支援者のメンタライゼーションが子どもや本人に対してどのような影響があるのかを予備的に検討することを目的とする。なお、本稿においては子ども支援者を「子どもの教育や発達支援に関わる職業に就く者」と定義し、保護者や里親を含めなかった。本稿のレビューは、子ども支援者の就業への適応を向上する効果的なコンサルテーションプログラムを構築する基礎的資料となり、子ども支援者が活躍する医療、教育、福祉、司法領域の現場実践に貢献することが期待される。

## 方 法

### 文献収集の方法

子ども支援者を対象とするメンタライゼーション研究の知見を整理するために、文献によるレビューを行った。近年の研究動向を調査するため、対象は2000年1月～2022年5月までに出版された論文とした。検索は2022年5月5日に実施した。検索には、データベースとしてAPA PsycINFO, APA PsycArticles, Psychology and Behavioral Sciences Collectionを用いた。検索はTable 1の式によって行ったが、その結果多数の論文が見つかったため、以下の適格基準に照らし合わせ選定を行った。メンタライゼーションとの互換性をもつ語として用いられる省察機能 (reflective function: 以下RF; Fonagy, Target, Steele, & Steele, 1998) についても抽出の対象とした。

1. 日本語文献の場合、タイトル、アブストラクト、キーワードのいずれかに「メンタライゼーション (またはメンタライズ、メンタライジング、省察機能)」と支援者に関する語 (Table 1) があること。
2. 英語文献の場合、タイトル、アブストラクト、キーワードのいずれかに「mentalization (またはmentalize, mentalizing, reflective function)」と支援者に関する語 (Table 1) があること。
3. 子ども支援者 (子どもの教育や発達支援に関わる職業に就く者) のメンタライジングに関する記述があること。
4. 子ども支援者を対象とする調査、または介入が行われていること。
5. 心理学関連の学術論文であること。

## 結 果

### 文献の収集結果

検索の結果415件が抽出され、適格基準すべてに該当する文献として最終的に11件 (英語論文9件、日本語論文2件) が抽出された (Figure 1)。対象となった調査研究をTable 2, 介入研究をTable 3に示した。抽

Table 1  
文献の検索式

検索式	
英文論文	「mentalization (OR mentalizing OR reflective function)」と下記のいずれかの語を含む
	child supporter (OR parenting supporter OR child-rearing assistance) caregiver (OR caretaker) counselor (OR therapist OR psychologist) teachers (OR educators OR school staff OR childminder)
和文論文	「メンタライゼーション (OR メンタライジング OR 省察機能)」と下記のいずれかの語を含む
	支援者 (OR 子ども支援 OR 子育て支援) 介護者 (OR 介助者) カウンセラー (OR セラピスト OR 心理士) 教師 (OR 保育士)

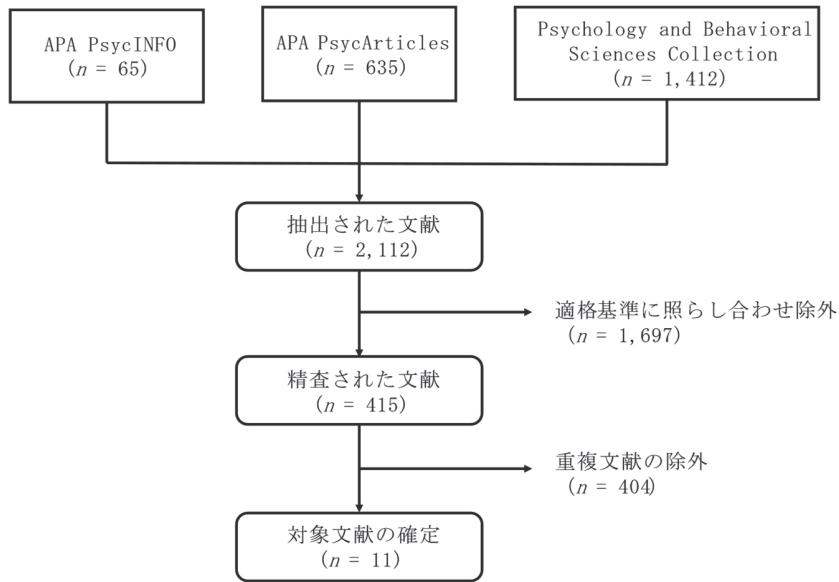


Figure 1 文献抽出のフロー。

Table 2  
調査研究の対象文献（発行年順）

文献	対象者	N	メンタライゼーションの アセスメント	その他のアセスメント
Jurie (2011)	幼児支援施設の教員、 施設長	教員 25 施設長 24	PDI-R2-S(Slade et al., 2003) を用いたRFの測定	発達支援環境の評価
Stacks et al. (2013)	幼稚園の教諭	20	PDI-R2-S (Slade et al., 2003) を用いたRFの測定	自己評価による教育行動
Cologon et al. (2017)	セラピスト、クライアント	セラピスト25 クライアント1001	AAI(George et al., 1985) を用いたRFの測定	セッション評価, 愛着スタイル
増田・田爪(2018)	教師志望の学生	553	メンタライゼーション尺度 (山口, 2016)	共感性
Dexter & Wall (2021)	小学校の教諭	46	PRFQ (Luyten et al., 2017) を用いたRFの測定	教師の燃え尽き感, 教師効力感
高垣 他 (2021)	教育実習生	142	メンタライゼーション尺度 (山口, 2016)	教師効力感, 実習における不安, 教師観, 教育観

注) RF: Reflective Function, PDI-R2-S: Parent Development Interview, Revised, Short Version, AAI: the Adult Attachment Interview, PRFQ: the parental reflective Functioning Questionnaire.

出された文献から、子ども支援者のメンタライジングによる影響と、介入が及ぼす影響について整理した。

**抽出された論文の特徴**

**(a) 対象者の属性** 抽出された論文の対象者 (N=1,085) を整理すると、支援者の年齢は 20 歳から 61 歳であった。性別についての報告がある対象者 (N=893) のうち、72%が女性であった。支援者の業種は、心理

士 (N=25)、保育士 (N=64)、幼稚園や幼児支援施設の職員 (N=69)、小学校教諭 (N=46)、心理系大学院生 (N=86)、教育実習生 (N=695)、メンタルヘルス関連分野に従事するもの (看護師、ソーシャルワーカー、医師、心理士、教師など: N=56) などであった。支援者だけでなく子どもとその保護者 (N=44)、クライアント (N=1001) も介入の対象に含む研究も抽出された (Malberg, Stafler, & Geater, 2012; Cologon,

Table 3  
介入研究の対象文献（発行年順）

文献	対象者	N	介入方法	メンタライゼーションのアセスメント	その他のアセスメント	介入の効果
Trowell et al. (2008)	看護師、ソーシャルワーカー、医師、心理士、教師、およびメンタルヘルス関連分野に従事する者	56	タビストッククリニックの研修コース	AAI(George et al. 1985)を用いたRFの測定	精神的健康	精神的健康とRFが有意に向上した。2年間の研修コースの途中で精神的健康の得点が低くなった。
Malberg et al. (2012)	子ども(平均6.5歳)、保護者、教諭	子ども 44	The Primary Schools Project (PSP)	—	子どもの社会的機能と一般的機能、子どもの精神的健康、子どもの総合的な困難さ	子どもの各指標に向上がみられた。
Ensink et al. (2013)	心理学専攻の大学院生	48	介入群: 短期メンタライゼーショントレーニング 対照群: 普通の教訓的トレーニング	TMAS (Normandin et al., 2012)	—	介入群のRFは有意に向上した。
Hartmann et al. (2015)	保育士	介入群 32 対照群 32	介入群: The psychoanalytic case supervision (Early Steps) 対照群: Faustlos	The Teachers' Reflective Functioning Interview (Hartmann 2012)	—	介入群のRFは対照群に比べ有意に高かった。
Lord, E. (2020)	ソーシャルワーク、臨床カウンセリング、学校心理学の博士課程学生	38	The reflective supervision/consultation (RSC)	The Reflective-functioning Manual (Fonagy et al., 1998)を用	スーパーバイザーの発言ターン数、支援者の訓練経験年数	介入は2.3か月ではRFに有意な変化はないが、RFの変化量は訓練経験年数に有意な正の相関がみられた。

注) AAI: the Adult Attachment Interview, RF: Reflective Function, TMAS: Therapist Mental Activity Scale.

Schweitzer, King, & Nolte, 2017)。

**(b) メンタライゼーションのアセスメント方法** 抽出された調査研究および介入研究で用いられたメンタライゼーションのアセスメント方法は、インタビュー7件、質問紙3件であった。アセスメント方法が用いられなかった研究は1件であった。

インタビューは、成人愛着インタビュー (the Adult Attachment Interview: AAI; George, Kaplan, & Main, 1985) を用いて RF を測定する方法が2件あった (Cologon, et al., 2017; Trowell, Davids, Miles, & Paton, 2008)。また、親視点での子どもとの相互交流を分析するための Parent Development Interview, Revised, Short Version (PDI-R2-S; Slade, Aber, Berger, Bresgi, & Kaplan, 2003) を用いて、RF を測定する文献が2件あった (Jurie, 2011; Stacks, Wong, & Ryznar, 2013)。AAI は親に対して幼少期にさかのぼって自身の親との関係に焦点を当てているのに対し、PDI は親がもつ子ども、自分自身、子どもとの関係について考える能力に焦点を当てており、親向けのものを支援者向けに改良して用いられている。類似の方法として、患者が自分自身や人間関係について語る映像を用い、映像に対するセラピストの感想や反応の記録について Therapist Mental Activity Scale (TMAS; Normandin, Ensink, & Maheux, 2012) を用いて分析する文献が1件あった (Ensink et al., 2013)。教師に対しては The Teachers' Reflective Functioning Interview (Hartmann, 2012) を用いて子どもの行動について説明してもらい、the Reflective Self Functioning Scale (RSFS; Fonagy et al., 1998) を用いてメンタライゼーションの程度を評価する方法がとられた (Hartmann et al.,

2015)。

質問紙は、The Parental Reflective Functioning Questionnaire (PRFQ; Luyten, Mayes, Nijssens, & Fonagy, 2017) を教師用に項目を変えて RF を測定した文献が1件 (Dexter & Wall, 2021)、メンタライゼーション尺度 (山口, 2016) を用いて測定された文献が2件あった (増田・田瓜, 2018, 高垣・吉村・牛島・田瓜, 2021)。

支援者に対してメンタライゼーションのアセスメント方法が用いられなかった介入研究 (Malberg et al., 2012) においては、個別事例の質的な記述によって介入対象者のメンタライゼーションの変化プロセスについて示された。

**(c) 子ども支援者のメンタライゼーションの影響** 子ども支援者のメンタライゼーション能力の影響について検討した調査研究は6件であった。子ども支援者のメンタライゼーション能力は「教育行動」(Stacks, Wong, & Ryznar, 2013), 「共感性」(増田・田瓜, 2018), 「バーンアウト」, 「教師効力感」(Dexter & Wall, 2021), 「実習における不安」(高垣他, 2021), 「クライアントのアウトカム」(Cologon et al., 2017) に影響することが明らかとなった。一方「発達支援環境」との相関はみられなかった (Jurie, 2011)。

「教育行動」については、PDI (Slade et al., 2003) でのインタビューを用いて、子どもの社会情動的スキルの発達を促進する行動例 (例: 感情に関する知識獲得を促す) と、阻害する行動例 (例: 感情を制御できない子どもを無視したり罰したりする) をカウントした (Stacks et al., 2013)。RF が高い教師は、RF が中程度以下の教師よりも、社会情動的スキルの発達を促進する



行動例を有意に多く挙げていた。

「バーンアウト」に関しては、精神的、身体的、感情的なバーンアウトへの影響を測定した (Dexter & Wall, 2021)。同研究において「教師効力感」に関しては、生徒への取り組み、指導方法、学級経営に対する効力感について評価された。メンタライジング能力の高さは教師のバーンアウトの予防因子としての教師の自己効力感に、ポジティブな影響を与えることが明らかとなった。教師が内省的であればあるほど、子どもの行動をメンタライジングしようとし、教師自身や生徒への肯定的な認識を維持出来るため、バーンアウトを予防する可能性が示唆された。

「クライアントのアウトカム」に関しては、The Outcome Questionnaire 45 (OQ-45) (Lambert et al. 2004) を用いて心理療法の効果が主観的苦痛、対人関係、社会的役割へ影響したかクライアントにより評価された。RFの高いセラピストのクライアントは、RFの低いセラピストに比べて有意にクライアントのOQ-45の得点が高かった (Cologon et al., 2017)。

「発達支援環境」に関しては、Infant/Toddler Environment Ratings Scale-Revised Edition (ITERS-R; Harms, Cryer & Clifford, 2003) を用いて、社会性と情緒性の評価に関連のある聞き取り、会話、交流、プログラム構成などの保育実践について評価された。支援者のメンタライゼーションと「発達支援環境」に示される保育実践の質との相関は見出されなかった (Jurie, 2011)。その理由として、調査対象となった乳幼児担当の支援者は経験が浅く、乳幼児の複雑なニーズに応える研修を受けていないため、高いRFを示す者もそれを発達支援環境に生かすことができている可能性を挙げている (Jurie, 2011)。

**(d) 介入方法** 介入研究は5件であり、子ども支援者のメンタライジング能力を向上する方法としてトレーニング2件、コンサルテーション3件が抽出された。介入の対象者は、看護師、ソーシャルワーカー、医師、心理士、教師、心理学などを専攻する大学院生、保育士、教諭（およびその生徒と保護者）であった。

トレーニングは、ロンドンのタピストッククリニックの研修コース (Trowell et al., 2008) と、短期メンタライゼーショントレーニング (Ensink et al., 2013) が抽出された。いずれも愛着理論やメンタライゼーションについての理論の講義が用いられた。研修コースでは、講義に合わせて小グループでのディスカッション、乳児観察も行われた。グループ内やスーパーバイザーとの定期的な話し合いによって、クライアントの症状と行動を理解するための時間が十分にとられた。

コンサルテーションは、14日間の精神分析的なケーススーパービジョンであるアーリー・ステップス・プログラムや、アタッチメントに基づくグループ介入 (The Group Attachment-Based Intervention: GABI;

Murphy, Steele, & Steele, 2013) を援用した省察スーパービジョン、子どもの退学を予防するメンタライゼーションに基づく早期介入 The Primary Schools Project (PSP; Malberg et al., 2012) が抽出された。いずれのコンサルテーションにおいても、子どもの感情や行動の背景にある関係性のダイナミクスに焦点を当てることで、支援者のメンタライゼーションを活性化する取り組みが行われた。

**(e) 介入による効果** 前項に示した子ども支援者のメンタライジング能力を向上する介入方法による効果を報告する文献からは、支援者自身への効果として「メンタライゼーション」や「精神的健康」に向上がみられた。対照群を設定した介入研究 (Ensink et al., 2013; Hartmann et al., 2015)、および単一群への介入研究 (Trowell, Davids, Miles, & Paton, 2008; Jurie, 2011) で、支援者のRFに有意な効果が認められた。一方、短期間の介入でRFに効果が得られた研究 (Ensink et al., 2013) もあれば、2、3か月では有意な変化がみられないという結果もあった (Lord, 2020)。後者においては、RFの変化量は訓練経験年数に相関することから、長期の介入の必要性が示唆されている。

また、支援者（ここでは教師）への介入によってもたらされる被支援者への影響を測定した研究 (Malberg et al., 2012) では、子どもの社会的な適応水準を示す「社会的機能」や「精神的健康」、「総合的な困難さ」の各指標に向上がみられた。同研究で保護者、教師、学校関係者からの質的フィードバックにおいても、指標の変化を裏づける回答があり、子どもの集中力や学習能力、フラストレーションへの耐性、仲間関係に改善がみられた。教室の力動にも変化がみられ、子どもと教師の間でオープンな対話ができるようになったと報告された。

## 考 察

本稿では、子ども支援者のメンタライゼーションに関する調査研究、および介入研究を系統的にレビューし、研究対象者の属性、アセスメントの方法、メンタライゼーションが影響する側面、子ども支援者への介入方法とその効果について整理した。

研究対象者は福祉、教育の領域に携わる支援者が多かったため、医療や司法領域など子ども支援者が活躍する幅広い領域での調査が求められる。メンタライゼーションのアセスメント方法の多くは、親向けに用いられたものを教師用に改変して用いられていた。特に介入研究においては、インタビューを用いたアセスメントが行われていた。今後は、一般成人向けに開発された質問紙尺度を用いて、多時点での介入測定を行うなどの精緻な効果検討が求められる。

子ども支援者のメンタライゼーションは、子どもとの関係性に直接影響する「教育行動」、「共感性」、「社

会性、情緒性」や、仕事に従事する上での感情的側面である「バーンアウト」、「教師効力感」、「実習における不安」への影響がみられた。子ども支援者のメンタライゼーションは、子どものメンタライゼーションの発達を促進し、支援者の職場ストレスを緩和する可能性が示唆された。

介入方法は、支援者にメンタライゼーションに関する知識を付与し、実際にケースを検討するうえでメンタライゼーションを用いて理解を深めさせる手順をとる方法が多くみられた。とりわけ、スーパーバイザーの質問内容とRFの関連を質的に検討した際、外的要因と内的要因を結びつける質問をした際に支援者のメンタライゼーションが効果的に促進されていた (Lord, 2020)。

抽出された介入方法は、子ども支援者のメンタライゼーションの向上に効果的であり、支援者の精神的健康に良い影響をもたらした。感情労働を求められるメンタルヘルスに関わる支援者は、仕事のストレスだけでなく、ライフイベントのストレスの両者に対処する、支援者の個人的な成長を促す訓練やスーパーバイズが必要である (Trowell et al., 2008)。メンタライゼーションに関する心理教育が日常の対人関係へも応用されることで、支援者の精神的健康につながる可能性も考えられる。また自省を伴う話し合いやメンタライゼーションへの関心を深める講義などを通じて、支援者自身のメンタライゼーションを向上し、チーム内の連携を図る取り組みが行われている。こうした取り組みによって、支援者にメンタライゼーションの重要性に気づいてもらうことは、効果的な実践を生み出すだけでなく、子どもと支援者が属するコミュニティ全体のメンタライゼーション能力の発達と精神的健康の向上に貢献することを目指している (Bevington & Fuggle, 2012)。一方、効果的な介入期間の長さについては見解が分かれていた。今後の研究において子ども支援者への介入の効果が、子どもに波及するまでにどのくらいの期間を要するのか検討する必要がある。

本稿の結果から、メンタライゼーションは職場ストレスが子ども支援者の精神的健康へ与える影響の緩衝要因として機能する可能性が示唆された。今後の展望として、メンタライゼーションを介する職業性ストレスモデルを精緻化した上で、子ども支援者支援プログラムを構築し実践することが期待される。一方、こうした子ども支援者支援の必要性はあるものの、現場に普及することの難しさがある。たとえばトレーニングにかかるコストの問題（事業者が負担するのか、それとも支援者本人が負担するのか）や、支援現場の忙しさの中に組み込むことの時間の問題、現場から遠い立場の者から専門知識を教えられるときに感じる支援者側のフラストレーションの問題 (Bevington & Fuggle, 2012) などがあげられる。特に研究結果をベー

スにマニュアル化されたプログラムの実施は、現場の実情に馴染まない場合があり、得た知識を実践に落とし込むことに課題が生じる。したがってプログラムの構築の際には、現場の取り組みをボトムアップする形でマニュアル化する工夫などを通じて、現場の支援者が蓄積した知識を尊重しつつ、柔軟性と持続可能性のある実施を心掛けるべきである。

最後に本稿の限界を以下に述べる。第1に抽出された研究のほとんどが女性のデータに偏っている点があげられる。第2に抽出文献が少ないことや、無作為抽出やランダム割り付けをされていない文献が含まれている点があげられる。以上のことから、知見の一般化には課題が残るため、本稿の結果は慎重に解釈する必要がある。

## 引用文献

- Allen, J. G., Fonagy, P., & Bateman, A. W. (2008). *Mentalizing in clinical practice*. Washington, DC: American psychiatric association publishing.
- Bateman, A. W., & Fonagy, P. (2004). Mentalization-based treatment of BPD. *Journal of Personality Disorders, 18*, 36–51.
- Bevington, D., & Fuggle, P. (2012). Supporting and enhancing mentalization in community outreach teams working with hard-to-reach youth The AMBIT approach In Midgley, N., & Vrouva, I. (Eds.). *Minding the child: Mentalization-based interventions with children, young people and their families*. (pp. 163–186) London: Routledge.
- Cologon, J., Schweitzer, R. D., King, R., & Nolte, T. (2017). Therapist Reflective Functioning, Therapist Attachment Style and Therapist Effectiveness. *Administration and Policy in Mental Health and Mental Health Services Research, 44*, 614–625.
- Dexter, C., & Wall, M. (2021). Reflective functioning and teacher burnout: The mediating role of self-efficacy. *Reflective Practice, 22*, 753–765.
- Ensink, K., Maheux, J., Normandin, L., Sabourin, S., Diguier, L., Berthelot, N., & Parent, K. (2013). The impact of mentalization training on the reflective function of novice therapists: a randomized controlled trial. *Psychother Res., 23*, 526–38.
- Fonagy, P., Target, M., Steele, H., & Steele, M. (1998). *Reflective Functioning Manual Version 5*. London: University College London.
- 藤岡 孝志 (2018). 『支援者支援養育論』の構築に関する論考—支援者支援を中核に据えた養育論— 日本社会事業大学研究紀要, 64, 115–129.
- George, C., Kaplan, N., & Main, M. (1985). *The adult attachment interview*. Unpublished manuscript, Berkeley: University of California. Retrieved from [http://www.psychology.sunysb.edu/attachment/measures/content/aa\\_i\\_interview.pdf](http://www.psychology.sunysb.edu/attachment/measures/content/aa_i_interview.pdf)
- Harms, T., Cryer, D., & Clifford, R. M. (2003). *Infant/*

- Toddler Environmental RatingScale, Revised Edition*. New York: Teachers College Press.
- Hartmann, L. (2012). Teachers Reflective Functioning Interview. In Bateman, A., Fonagy, P. (Eds.) *Handbook of Mentalizing in Mental Health Practice* (pp. 43-65). Arlington VA: American Psychiatric Publishing.
- Hartmann, L. K., Neubert, V., Läzer, K. L., Ackermann, P., Schreiber, M., Fischmann, T., & Leuzinger-Bohleber, M. (2015). Mentalization and the impact of psychoanalytic case supervision. *Journal of the American Psychoanalytic Association*, 63, NP20-NP22.
- Jurie, C. C., (2011). Considering Care: Infant Teachers, Reflective Function and the Care Environment in Child Care Centers. *Dissertations*. 34.
- 加藤 尚子・益子 洋人 (2013). 児童養護施設職員のバーンアウトに関する研究—職員支援にもとづく被措置児童等虐待防止の観点から— 明治大学心理社会学研究, 8, 1-15.
- Lambert, M. J., Morton, J. J., Hatfield, D., Harmon, C., Hamilton, S., Reid, R. C., ...Burlingame, G. M. (2004). *Administration and scoring manual for the outcomequestionnaire-45*. Orem, UT: American Professional Credentialing Services.
- Lord, E. (2020). An exploration of reflective functioning during reflective supervision (Order No. 28093226). *ProQuest Dissertations & Theses Global*. Retrieved from <https://www.proquest.com/dissertations-theses/exploration-reflective-functioning-during/docview/2455757303/se-2?accountid=14891>
- Luyten, P., Mayes, L. C., Nijssens, L., & Fonagy, P. (2017). The parental reflective functioning questionnaire: Development and preliminary validation. *PLoS One*, 12, e0176218.
- Malberg, N. T., Stafler, N., & Geater, E. (2012) Putting the Pieces of the Puzzle Together: A Mentalization-Based Approach to Early Intervention in Primary Schools, *Journal of Infant, Child, and Adolescent Psychotherapy*, 11, 190-204.
- 増田 優子・田爪 宏二 (2018). 教師志望学生のメンタライゼーションと共感性との関係 大阪大学教育学年報, 23, 29-41.
- 森本 寛訓 (2006). 医療福祉分野における対人援助サービス従事者の精神的健康の現状とその維持方策について—職業性ストレス研究の枠組みから— 川崎医療福祉学会誌, 16, 31-40.
- Murphy, A., Steele, M., & Steele, H. (2013). From out of sight, out of mind to in sight and inmind: Enhancing reflective capacities in a group attachment-based intervention. In *Attachment-based clinical work with children and adolescents* (pp. 237-257). NY: Springer.
- 内閣府 (2021a). 「令和3年版子供・若者白書」最終アクセス 2022年5月30日. <https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r03honpen/pdf/hyoshi.pdf>
- 内閣府 (2021b). 「子ども・子育て支援制度について」最終アクセス 2022年5月30日. [https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/setsumei\\_p1.pdf](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/setsumei_p1.pdf)
- 内閣官房 (2022). 「こども家庭庁設置法案」最終アクセス 2022年5月30日. <https://www.cas.go.jp/jp/houan/220225/siryou6.pdf>
- Normandin, L., Ensink, K., & Maheux, J. (2012). Therapist's Mental Activity Scale (TMAS): A revision of the Countertransference Rating Scale (CRS). Unpublished manuscript, *Université Laval*, Quebec.
- 落合 美貴子 (2003). 教師バーンアウト研究の展望 教育心理学研究, 51, 351-364.
- 椎谷 淳二・栗田 宏・宗像 恒次 (1990). 精神薄弱関係施設職員の精神健康とその社会的背景 (第1報) 精神保健研究, 36, 113-121.
- Slade, A., Aber, J.L., Berger, B., Bresgi, I., & Kaplan, M. (2003). *Parent Development Interview, Short Version*. NY: City University of New York.
- Stacks, A., Wong, K., & Ryznar, T. (2013). Teacher reflective functioning: A preliminary study of measurement and self-reported teaching behavior. *Reflective Practice*, 14, 1-19.
- 高垣 マユミ・吉村 麻奈美・牛島 順子・田爪 宏二 (2021). 女子大学生の教育実習における教師効力感と実習不安に対するメンタライゼーション能力の影響 津田塾大学紀要, 53, 45-57.
- Trowell, J., Davids, Z., Miles, G., Shmueli, A., & Paton, A. (2008). Developing healthy mental health professionals: what can we learn from trainees?. *Infant Observation*, 11, 333-343.
- 山口 正寛 (2016). メンタライゼーションと境界性パーソナリティ傾向との関連—メンタライゼーション質問紙作成の試みから— 福山市立大学教育学部研究紀要, 4, 129-136.

